# 自転車用ヘルメットの購入費を補助します

市ホームページ（電子申請）はこちら。

問い合わせ　市民課　☎59-2142




**対象ヘルメット**
○令和8年4月1日以降に市内店舗で購入した新品のもの
○SGマークなどの安全基準に適合したもの

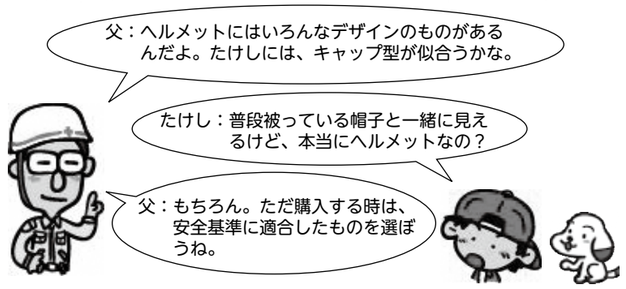
**補助金額・要件**
○購入費の2分の1の金額（ただし、100円未満切り捨て）上限3000円
○予算上限に達し次第、受け付けを終了します。

**補助対象者**
○過去、補助対象者となったことがない方
○大竹市に住民票がある方
○市税の滞納がない方　など

**申請期間**
令和9年3月31日㈬まで（電子申請の場合、24時間申請できます。）
※郵送の場合は、消印日が申請期間内であれば有効とします。
※申請に必要な書類や申請方法の詳細は市ホームページをご確認ください。

## バリエーションが豊富






**大竹警察署地域交通課長に聞く　教えて　松尾慎一警部**

**○昨今の自転車事故の状況を教えてください。**

広島県では今年の8月末までに620件もの自転車の交通事故が発生し、前年比では54件増加しています。事故の特に多い時間帯は、朝の通勤・通学、夕方の帰宅時間が最も多くなっています。大竹市内でも重傷事故となったケースがあります。

**○市民の皆さんに伝えたいことは？**

自転車乗車中に事故で亡くなった方の半数以上は、頭部に致命傷を負っています。死亡・重傷に至るリスクはヘルメット着用の有無で約1．7倍の差があります。

道路交通法におけるヘルメットの着用は努力義務となっています。だから「かぶらなくてもいい」のではなく、自分自身や大切な家族が、万が一事故にあった時、「命を守る・命を守りたい」そのために、ヘルメットの着用をお願いします。

安全基準マークの例

## 自転車モデル校

9月25日に小方中学校で『自転車安全利用等モデル校』指定式が行われました。同校は引き続きヘルメットの着用の徹底と生徒への交通安全教育を行います。市内では3月に大竹中学校が指定を受けています。

生徒を代表して指定書を受領した田中真尋さんは「生徒のみんなにヘルメットの着用を呼びかけたい」と話し、大竹警察署の泉新作署長は「学生がヘルメットを着用している姿を見て、地域全体の安全に対する意識が高まり、着用率の増加に繋げたい」と話しました。





# 最大10,000円
# 家庭用防犯カメラ・インターホンの設置を補助します




問い合わせ
市民課　☎59-2142





市ホームページ（電子申請）はこちら。

**補助対象機器**
令和8年4月1日以降に購入した新品のもの（インターネットでの購入も可）
○防犯カメラ
屋外用、録画機能付きのもの
※本体のみ対象です。SDカードなどの記録媒体や周辺機器は対象外です。
○インターホン
録画機能付きのもの
SDカードなどの記録媒体や周辺機器は対象外です。

**補助金額・要件**
○購入費の2分の1の金額（100円未満切り捨て、購入費は、消費税など・工事費含む）上限1万円
○予算上限に達し次第、受け付けを終了します。

**補助対象者**
○大竹市に住民票がある方
○大竹市に住宅を有し、自ら居住している方
○市税の滞納がない方　など

**申請期間**
令和9年2月26日㈭まで（電子申請の場合、24時間申請できます。）
※申請に必要な書類や申請方法の詳細は市ホームページをご確認ください。

**大竹警察署**
**生活安全刑事課長に聞く**
**教えて　野間優一警部**

コロナ禍を底に、全国的に刑法犯認知件数が増加しています。大竹市においても同様に増加しており、強盗・空き巣・特殊詐欺などの凶悪事件も発生しています。防犯対策として、まず市民の皆さんには「身近に犯罪はある」という危機意識を持っていただき、その次のステップ「防犯に対する行動へ」に進んでもらいたいと思います。

防犯を考える上では、「目・音（声掛け・警報音など）・光（ライトなど）・時間（二重ロックなど）」のキーワードが大切です。『**防犯カメラ・インターホン**』は「目（状況の監視）」となります。誰しも「誰かに見られている」という心理が働くと、不安を形成し犯行を留まらせる、犯罪抑止の効果を有します。

「安全安心なまち」の実現は、一人でも、もちろん警察だけでも実現することはできません。市民の皆さんのご理解とご協力があってこそ、共に目指し活動して実現できるものだと思っています。



